



乗船レビュー①

東京九州フェリー

横須賀～九州 21時間の旅

2021年7月。22年ぶりの新設長距離航路である
東京九州フェリーが、新たな歴史を刻み始めた。
一体どのような航路なのかレポートしたい。

乗船日

2021年8月17日(火曜日)
はまゆう 横須賀→新門司

西に帰るのに東へ向かう

2021年8月。私は所用で京都にいた。そして、どうやって九州に帰るか悩んでいた。青春18切符を所持しているのでも山陽本線を使い続けて帰るのがスタンダードではあるのだが、困ったことに数日前に広島付近が水害でお亡くなりになってしまった。いつも通り瀬戸内海をフェリーで帰るのもありだが…、せっかくだからこの機会に乗っておきたいものがあった。

昼に京都を出発、大雨の東海道を鈍行を乗り継いでひたすら「東」に向かう。果てしなく長い静岡大陸を抜け、たどり着いたのは2年近くぶりの横須賀である。そう、今こそ東京九州フェリーに乗る機会だと判断したのだ。東京九州フェリーはひと月半前の7月1日に就航したばかりである。

横須賀は取材で幾度となく訪れているが、駅前の案内板に表示された「九州行きフェリーのりば」の文字を確認すると、そうか本当に就航したのだな、としんみりとしながらめっちゃめっちゃテンションが上がった。

フェリーターミナルへの道を歩いていくと、警察署の交差点からこれから乗るフェリーが頭を出した。そういえばこんな町中に長距離フェリーのターミナルがあるのも珍しい。まあそれがもてちょっと問題が起きたのではあるが…



フェリーターミナルのあるふ頭に入ると、福山通運のトラックが複数台停まっているのが見えた。フェリーの重要なお客さんは固定客、要するに貨物なわけで、これは固定客として確保できたのかなと思っていたが、考えてみればJR山陽本線の不通で九州への貨物列車が運転できない状況にありこれは代行なのかもしれない。いずれにしてもいざという時のルートとしてさっそく威力を発揮しているようだ。



横須賀フェリーターミナルに入る。ネット予約の場合QRコードでデジタル乗船券がご用意されるので、窓口はスルーして直接待合室へ。一階の乗船受付窓口は思ったより小さな印象だったが、二階の待合室はそこそ広い空間だった。軽食コーナーとショップが設けられているが、軽食コーナーについては22時を過ぎていたのですでに店じまいしていた。ショップは乗船開始まで開いているが品ぞろえは土産品とドリンクが主であり、何か腹を満たそうとすると厳しい。必要な食物があれば事前に横須賀中央駅付近のコンビニで調達しておくとかよいだろう。

横須賀中央警察署 Yokosuka Central Police Station	
横須賀年金事務所 Yokosuka Pension Office	500m
神奈川県横須賀合同庁舎 Kanagawa Prefecture Yokosuka Contract Office	700m
九州行きフェリーのりば Ferry Terminal (to Kyushu)	1.0km
商工会議所 Chamber of Commerce & Industry	1.1km
上町方面	



いよいよ乗船！

23時、乗船開始のアナウンスが流れいよいよ乗船。フェリーに入ってまずはエントランス。エントランスは豪華に三階分を吹き抜けており、中央にエレベーターを配している。めっちゃ阪九フェリーじゃな！というのが第一印象であったが、そりゃグループ会社なのでしょうがない。



これから21時間お世話になるのでひとまず席のほうへ。今回は基本タイプのツーリストA、すなわちベッド席である。まあいつものタイプじゃなと思いつつも、最新鋭ということでキャリーカートに対応した荷物置き場に鍵付きの小物置き場、そして電源がUSB端子を備えていることに気づく。こうした席でも少しづつアップグレードされていくのだなと感心。

とりあえず晩飯をまだ食べていないので、レストランが開くまでに軽く船内を見ていく。船は三階層になっているが、公室はエントランス付近に集まっており、そのエントランスとほぼ同じ程度の大きさの客室区画が隣接するというコンパクトな構成である。正直に言ってしまえば狭い。まあ定員が他の大型フェリーの半分程度の268名しかいないため、それらと比べれば狭くなるのは当然であろう。

案内所と売店、そして自分の部屋が4F、レストランが5F、風呂とシアターが6F。構造の近い新日本海フェリーのらべんだあではまだ前後移動の余地があったが、この船は前方に乗船区画が偏っている。そんなわけで船内探検も一瞬で完了した。

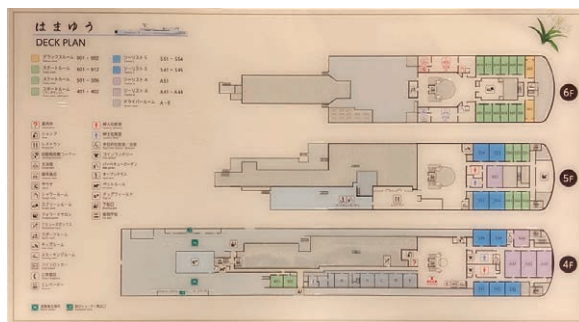


23時半、レストランの夜食営業がオープン。夜食ということでおつまみ系やうどん、カレー等の軽食がメインの営業である。夜食営業は似たような時間に発航する新日本海フェリーにはなかったものである。合計するとレストランは乗船中4回開くことになるが、その代わりこちらにはカフェがない。自分の場合は晩飯を食ってなかったのでカレーを食べて晩飯としたが、周りを見てもおつまみとビールで一杯やってる人もいた。夜食営業は1時までだが、同時に浴室も1時までである（※シャワーはずっと開いている）。浴室はフェリーに乗った時点で開いているので、まず汗を流してレストランで一杯のほうが余裕がありそうだ。

カレーをもそもそと食っていると出航時刻となり、フェリーは静かに出航を迎えた。21時間の長いようで短い航海が始まる。



どことなく阪九フェリー臭のするエントランス



船内見取り図 白っぽいところが立ち入りできる場所なので前側に偏っている

はまゆう サービス時間のご案内 OPENING HOURS		乗船時間	入港時間	8:00	12:00	18:00	20:00
6F	大浴場・露天風呂・サウナ Grand Bath・Open-air Bath・Sauna	乗船時間	乗船時間	8:00	12:00	18:00	20:00
	シャワールーム Shower Room	乗船時間	乗船時間	8:00	12:00	18:00	20:00
	スポーツルーム Sports Room	乗船時間	乗船時間	8:00	12:00	18:00	20:00
5F	レストラン Restaurant	乗船時間	乗船時間	8:00	12:00	18:00	20:00
	案内所 Information	乗船時間	乗船時間	8:00	12:00	18:00	20:00
	ショップ Shop	乗船時間	乗船時間	8:00	12:00	18:00	20:00
4F	アミューズボックス Amusement Room	乗船時間	乗船時間	8:00	12:00	18:00	20:00
	消灯時間 Time of lights out	乗船時間	乗船時間	8:00	12:00	18:00	20:00
	乗船時間	乗船時間	乗船時間	8:00	12:00	18:00	20:00

総合営業時間案内 ※本書発行時点ではスポーツルームとアミューズボックスは再開



食事の楽しみ

この航路は夜食を含めて4回食事のチャンスがある。ぶっちゃけ食事が唯一の楽しみといっても過言ではない航路なので、メニューは九州と関東の名物を使ったしっかりとしたもの食べられる。金に糸目を付けぬのであれば全食レストランでいただくことをお勧めしておきたい。(僕はケチなので朝飯を抜きました)

特に昼食時にはレストランに隣接したオープンデッキでBBQが出来るようになっている。といってもデッキにホットプレートを用意した程度のもではあるが、これが結構な名物となっており、あまりにも人気で多客時は抽選になるほどという。そして夏季限定のはずが1月まで延長された挙句に早くも3月から再開されている。夏季とは？



BBQのあとにおやつ代わりに買った横須賀海軍カレーパン。ちゃんと揚げたてを提供してくれるのはうれしい。(昼・夜のみの販売)

LUNCH MENU 昼メニュー									
1. 旬産品を使った 海鮮 豪華なシラス丼 ※海鮮丼 1,200円 ※シラス丼 1,500円	2. 長崎県産の新鮮な アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	3. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	4. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	5. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	6. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	7. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	8. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	9. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	10. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円
11. 旬産品を使った 海鮮 豪華なシラス丼 ※海鮮丼 1,200円 ※シラス丼 1,500円	12. 長崎県産の新鮮な アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	13. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	14. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	15. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	16. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	17. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	18. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	19. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	20. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円

DINNER MENU 夜メニュー									
1. 旬産品を使った 海鮮 豪華なシラス丼 ※海鮮丼 1,200円 ※シラス丼 1,500円	2. 長崎県産の新鮮な アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	3. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	4. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	5. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	6. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	7. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	8. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	9. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	10. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円
11. 旬産品を使った 海鮮 豪華なシラス丼 ※海鮮丼 1,200円 ※シラス丼 1,500円	12. 長崎県産の新鮮な アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	13. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	14. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	15. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	16. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	17. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	18. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	19. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円	20. 新鮮なアサギと アサギ 1,200円 ※アサギ 1,500円

乗船中のイベント

船内イベントスケジュール	
09:00~ クロスワード	乗客がクイズやクロスワードを解くゲーム
11:00~ プラネタリウム上映	プラネタリウム上映
13:30~ シアター上映	シアター上映



すれ違う姉妹船「それいゆ」



水の子島灯台

食事だけが楽しみとは書いたが、一応船側でもできる限りの船内イベントを用意している。船内には映画などが上映できるスクリーンルームがあるため、プラネタリウムとシアター上映が行われる。クロスワードは多客時に期間限定で行っているようだ。かなり歯ごたえがあり(普通に分かん)、全問正解者には抽選でグッズがもらえたりする。

また、SNFグループの航路では姉妹船のすれ違い時に出来るだけ船を寄せるサービスを行っており、東京九州フェリーでも同様のサービスを行っている。時間は10時12分頃となっているが、運行状況によってはずれたり遠くになったりもする。

さらに西行きでは足摺岬を回るのが15時頃のため、豊後水道を明るいうちに通過できる。水の子島灯台や佐田岬灯台などを結構間近に見ることができる。

様々な船内施設

そのほか、乗船をさらに楽しむための様々な船内サービス・施設があるので紹介していく。まず船には船内Wifiが設置されており、陸地に近い場合のみ使用できる。5回×30分しか利用できないので注意。コンテンツ配信サービスもあり、こちらは船内サーバーから読みだす形なのでいつでも見れる。

6階の大浴場は昼間はずっと解放されているので露天風呂を含めて入り放題である。荒天の場合閉鎖されることもあるので注意。同じく6階にはランニングマシンとコードレスバイクが置かれたスポーツルームもあり、無料で使用できる。

4階にはアミューズメントルームがありカラオケを楽しむことができる、またDVDを借りて鑑賞することもできる(1時間1000円)。ただし一部屋しかないので注意。

これらイベント・サービスと食事を組み合わせていけば、なんだかんだで21時間なんぞあつという間に過ぎていく。



最大の懸念「揺れ」

実は、乗船直後あたりに本日の海上模様のアナウンスがあった。「今日は時化てます」

これは覚悟せねばなるまい…思い出すのは就航日7月1日のこと。自分は乗りに行けなかったのだが、やはり久々の新設長距離フェリーということで、Twitter上では多くの人が横須賀と新門司に集まり、東京九州フェリー乗船を実況しまくっていた。しかし、この日の天気は超絶荒れ模様で、特に西行きが4mの波という状況。歴戦の交通クラスタも轟沈するほどのヤバい揺れでまさに地獄だったとか。船の揺れは外洋航路の宿命ではあるが、よりもよって一番注目されている日になかなか散々な状態であった。(ちなみに東行きは割と平和だった)

とはいえだ、こちらも激流の豊予海峡を往く国道九四フェリーで慣らした身。負けるわけにはいかぬ。

揺れに対抗するには「寝る」である。ひたすら寝て過ごすのだ。ヤダー！せっかく乗ったんだから楽しみたい！！という気持ちはわかるが、とにかくやばそうな揺れであれば無理してはいけない。寝るのだ…寝るのだ…



1時を過ぎると船は三浦半島の南、すなわち相模湾へと出る。このころにはそこそこ揺れているはずなのでとっとと寝よう。3時半くらいにふと目が覚めて、ちょうど携帯がつながっていたのでMarineTrafficで現在位置を確認。場所は伊豆半島の真南で、ちょうど太平洋フェリーのきそを抜きにかかっていた。時化ているとの放送の通り船の揺れは結構強くなっていた。下の方からすごい音がしている。幸いにも寝てやり過ごせそうな程度ではあるので、眠りにつくことにする。

翌朝10時頃に紀伊半島の南の潮岬を通過。引き続き時化ており、アナウンスでは2.5m～3mほどの波という。この先は穏やかになるということで、特にやることもないので午前中はベッドでゴロゴロしていた。やはり寝るしか勝たん。

そして午後、四国沖に来た頃にはあまり気にならない程度の揺れになっていた。波に逆らう形になるとどうしても揺れるので、



見た目は大したことなさそうなのだが、そもそも乗っているフェリーが太平洋を時速50キロ台で爆走していることを忘れてはならない。

揺れに弱い人はそのあたりも気にしておくとよいだろう。いや、というか揺れに弱いと自覚があるなら基本的にやめておいたほうが良い。

結局のところ、東京九州フェリーを存分に楽しめるかどうかは「揺れ」次第なところがある。なんだかんだで貨物がメイン、旅客はおまけな航路ではあるので、結構な荒天でも構わず船は出ることが多い。



選択肢の一つとしてのフェリー

さて、一通り東京九州フェリーについて紹介してきた。定評のある新日本海フェリーを育てたSNFグループの新航路である。旅客面でもなかなかの気合が入っていることがわかる。しかし…九州住みの自分が関東への行き来に東京九州フェリーを常用するかというと、答えは「NO」である。関西～九州間であれば普段使いでもちょうどいいのだが、東京～九州間だとやはりどうしても飛行機に軍配が上がってしまう。21時間は時間がかかりすぎるのだ。そして大抵はLCCのほうが安い。あと新門司に着いてから地元への乗り継ぎ時間がものすごいタイト、連絡バスが数分遅れたら帰れなくなってしまう。

東京九州フェリーは、あくまでも移動で非日常を楽しむためのものと割り切ったほうが良い。効率で見るとならLCCに乗ったほうが安いし、現地での時間も有意義に使える。この辺りはSNFグループのほかの航路にも言えることではある。

東京から九州へ旅行するのに、片道は飛行機でスパッと、片道はフェリーで1日かけてのんびりと帰る、そういう新しい選択肢ができたと考えたと使やすくなるだろう。もちろん、フェリーなのだからバイクやマイカーを連れて行ってもよい。船内での過ごし方も自由である。

新しい歴史を乗せて走り出したフェリー。あなたもぜひ、航路の歴史の一人になってみませんか？

